

## 機関報告

### ベオグラード大学日本語・日本文学専攻課程概要(2008/2009)

日本語・日本文学専攻課程は、ベオグラード大学文学部東洋学科に属し、セルビアにおける日本語教育、日本研究の中心的な役割を果たしている。1976年、選択科目としての初級レベルの二年制日本語コース開設がされ、1985年には中級レベルまでの日本語教育のほか、日本文学史、文明論などもふくめたカリキュラムによる四年制の専攻課程発足、今日に至っている。第一期は10名の入学者で発足したが、現在は、1年から4年まで約300名の在籍者がいる。

教官は現在、教授1名、助教授1名、常任講師4名、助手2名、非常勤講師2名、客員講師2名。うち日本語を母語とする教官数は4名。

本コースは、旧ユーゴスラビアのみならずバルカン半島初の日本語教育機関および日本学研究機関として出発したが、1991年の内戦勃発、国家解体の過程で他国との交流がとだえたのみならず、国連による文化制裁期間中はあらゆる奨学金も中止され1999年のNATOによる空爆期間にいたるまでは、若手の研究者を育成することが極めて困難な状況におかれていた。しかし2000年以来、社会状況も安定し、2006年度からはボローニャ条約に基づく新しい制度も取り入れられ、新しい世代が生れつつある。2006年より東京外国語大学日本語教育センターの協力をえて、同大学修士課程を修了した専門家を客員講師として招聘、現在は淵上真由美講師、和田沙江香講師を中心に、漢字、文法、会話など日本語教育が大きく変わりつつある。また現地教師たちとのよき輪が生まれ、新風が吹き起こっている。

#### 本年の活動

池澤夏樹氏による講演

2008年10月、ベオグラード国際書籍見本市のゲスト国として日本が選ばれ、オープニングには作家池澤夏樹氏が招かれた。これを機に10月21日、ベオグラード大学では池澤夏樹氏に講演をお願いした。「宮沢賢治と近代文学」と題して100名以上の学生が氏のお話に熱心に耳をかたむけ、貴重な時を分かち合った。

翻訳活動の充実、『古事記』刊行

山崎洋氏を中心にダニエラ・ヴァシッチ、ダリボル・クリチコヴィッチ、ディヴナ・グルマツの四氏が、七年を費やして『古事記』のセルビア語への翻訳を完成、このたびRad社より出版されたほか、ダニエラ・ヴァシッチ、ダリボル・クリチコヴィッチ両氏の翻訳による芥川龍之介の短編集も同社より刊行され、日本語からの翻訳作品も充実してきた。ダニエラ・ヴァシッチ氏の古事記とセルビア民謡のモチーフの比較研究もセルビア語でまとめられ、Sunce i mac (『太陽と剣』、Rad社)が刊行された。JPLANGセルビア語版完成

2005年から開始した東京外国語大学のプロジェクトJPLANG教材のセルビア語版が、2008年12月には、インターネットで学習者にむけて提供される予定である。山崎佳代子を中心に、ダニエラ・ヴァシッチ、ダリボル・クリチコヴィッチ、ディヴナ・グルマツ、サーニャ・ヨカ、山崎洋の協力をえて完成した。

## 留学状況

サーニャ・ヨカ氏 東京外国語大学修士課程(文科省)

イエレナ・ニコリッチ氏 岡山大学研究課程(伊藤財団奨学生)

ミリツァ・パヴコヴィッチ氏 奈良教育大学(学部留学、文科省)

ドリス・メディッチ氏 中央大学(学部留学、中島平和財団奨学生第2期)

## 交流状況

中央大学、広島大学、岡山大学、東京大学、明治大学(手続が進行中)

山崎佳代子記